

# マイハザードマップづくり

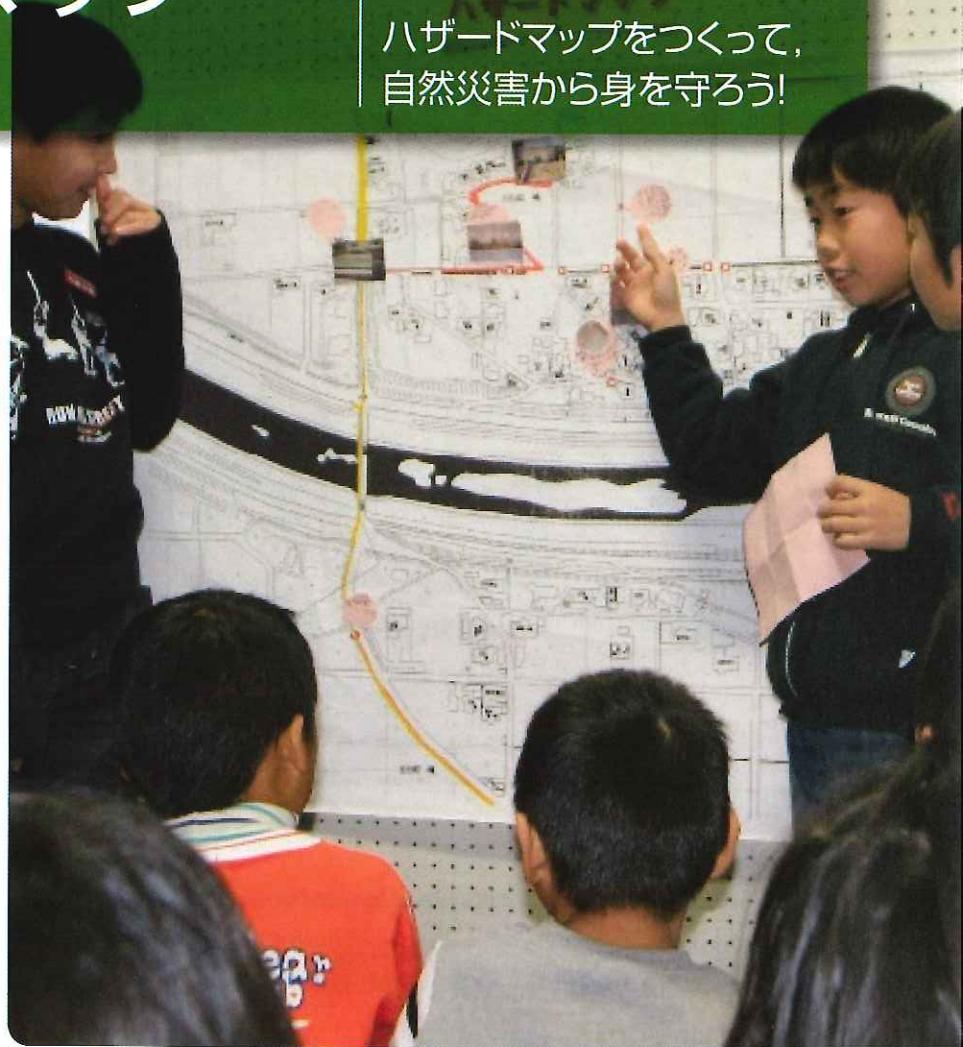
ハザードマップ  
ハザードマップをつくって、  
自然災害から身を守ろう!

## 活動概要

本活動は、平成16年に起った水害の状況を調べ、自分たちの町にも起こり得る災害と、その対処法を学ぶことなどを目的に、ハザードマップ作りを行ったものです。

実際に小坂校区の被災の様子を取材することで、児童は防災の意識が高まっただけでなく、地域とのつながりの大切さを学びました。

学校名	兵庫県豊岡市立小坂小学校
活動場所	小坂小学校校区内
対象学年	4年生
科目	総合的な学習の時間「ハザードマップを作ろう～防災探検隊～」の活動で実施
所要時間	活動30時間



## 学習のねらい

本学習は「総合的な学習の時間」の活動として実施しています。

小坂小学校の子どもたちは、この活動を始める3年前に台風での水害を体験していますが（平成16年10月、台風23号）、当時小学1年生であった子どもたちは、この記憶が少しづつ風化している部分もあります。

そのため、本学習では、防災学習を取り入れ、自ら考え、

自ら判断し、問題を解決することにより、高い防災意識を身につけ、災害から身を守る力を学ぶことをねらいに、ハザードマップづくりを行いました。

また、地域社会とのつながりも育みたいという目的で、小坂校区の被災の様子を取材したり、地域へ発信したりするという、ゴールを目指した活動としました。

## 実践例

## 活動を行うにあたって



### P プログラム内容

活動1 6時間	水害や自然災害の情報を得る
活動2 6時間	ハザードマップのめあてと計画を立てる
活動3 10時間	ハザードマップをつくる
活動4 6時間	ハザードマップを発表する

活動5  
2時間

災害が起きたときの行動を考える



### 活動時期

・10月～3月に実施



### 参加した児童数

・4年生 28名



## 活動場所

- ・小坂小学校 校区内



## 使用した道具

マップづくりの道具（白地図や模造紙、マジック、シールなど）

前年度の子どもたちが作成したハザードマップ



## スタッフの手配

活動を行うにあたって国土交通省の方々に協力していました。

国土交通省の方には、子どもたちと一緒に校区を調査したり、地域の人への聞き取りをしたりする際に、協力いただきました。

## 活動内容



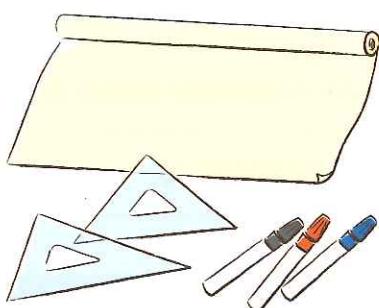
### 活動1 ～水害や自然災害の情報を得る～



- 最初に、平成16年に発生した台風による水害をはじめとする、様々な自然災害に関する情報を調べました。
- 自然災害を調べる過程で、砂防えん堤の働きについても考え、土砂災害を防ぐために「ひょうご元気松」の植栽活動に参加しました。
- また、前年度の4年生が作ったハザードマップを見て、現在の校区の危険個所や防災設備の様子などを考えました。



### 活動2 ～ハザードマップのめあてと計画を立てる～



- みんなでどのようなハザードマップにするのか話し合い、めあてと計画を立てました。
- ハザードマップづくりのめあてを決めたら、それぞれの役割分担を決めました。
- また、わかりやすいハザードマップを作るための工夫についてみんなで考えました。



### 活動3 ~ハザードマップをつくる~

#### ① 避難所の決定と、安全な避難道路の条件について考える

- まず、活動2の復習として、何のためにハザードマップをつくるのかを確認しました。



↑ 校区の調査

- 水害時にはどこに避難するかを、事前に家族等に聞き取りをし、提出しました。

- 次に、教師が市役所に確認した避難所について、説明をしました。

- その上で、どこに避難するのがよいか、地区ごとに話し合って決定しました。

- 各自、白地図に自分の家から避難所までの避難経路を考え、地図に色づけをしました。

- 各自、自分の地図を見せ、なぜその経路にしたのかを発表しました（土砂崩れがなさそう、マンホールがないなどの意見がありました）。

#### ② 危険場所を調べる

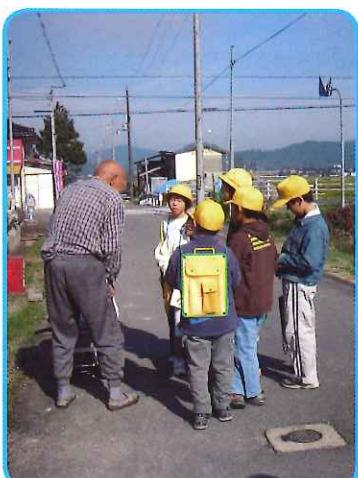
- まず教室で、避難道路や危険な場所を調べるためにあたっての確認をしました。また、地域の人にインタビューをする際に何を聞くのかを考えさせ、隣の席同士でインタビューの練習をしました。

- 次に、野外での活動を行いました。地区は全12地区なので、3班に分けて活動を行いました。

- 教師や国土交通省豊岡河川国道事務所の方の引率で校区内を歩き、校区内の危険な場所や避難経路になりそうな場所の確認を行いました。移動に時間がかかるないように自転車も使用しました。

- 現地調査と併せて地域の人を訪ね、平成16年の台風23号発生時の水害の様子について、聞き取りを行いました。

- 聞き取り調査や現地調査による情報と昨年度のマップをもとに、安全な避難経路を考えました。最後に情報を整理して、地区別にマップに書き込みました。



↑ 聞き取り調査の様子



↑ マップづくり

実践例





## 活動4 ～ハザードマップを発表する～



↑ 作成したハザードマップ

- 作成したハザードマップを校区住民に配布し、活用を促しました。

- また、配布の際、校区住民の思いを聞き、ハザードマップの見直し作業を行いました。



## 活動5 ～災害が起きたときの行動を考える～



↑ 国土交通省の方による講演

- マップを見て、小坂校区内で危険な場所がどこかを考えました。

- 災害が起きた際に、どのような行動をとればよいのかをみんなで話し合いました。

- 最後に国土交通省の方より、地域の防災の取り組みなどについてお話を聞きました。

## まとめ



### 活動による効果

校区の災害に関心をもち、地域の危険な場所を学ぶことで、地域とのかかわりを深めることができました。また、マップをみんなに伝えることで、災害の心構えを培いました。



### 関連する単元

- ・3・4年生－社会「災害及び事故の防止」
- ・共通－総合的な学習の時間



### 地域の人の声

先日はハザードマップをお送り下さりありがとうございました。鳥居区の危険なところや避難するための道筋がはっきりわかり、その上説明まで書いてあるのでとても参考になります。さっそく家族の目の留まるところにはりました。

これからも校区住民の安全や安心のために、小坂小学校の皆様の知恵を貸してください。



### 先生の声

情報量や正確さはあまりよくないかもしれません、共に助け合う心を高めることができたのではないかと思います。災害が起きたら自分の命とともに、近所に住む人たちの命や、安全についても考えられるような子どもたちに、育つて欲しいと思っています。

# 生き物フレンズの活動

全国の活動を代表して  
校外に発信!!

## 活動概要

グローブ\*活動校の一つである海田東小学校は、川の学習にも熱心に取り組んでいます。生活科・理科・総合的な学習の時間を使って、全校生徒が川をフィールドに活動しています。

海田東小学校では、このグローブ活動や川の学習の成果を校外に代表者として発表する「生き物フレンズ」というチームを作り、活動しています。

学校名	広島県海田町立海田東小学校
活動場所	学校近くの三迫川、瀬野川
対象学年	4~6年生
科目	課外活動等



## \*グローブ (GLOBE) について

GLOBE (Global Learning and Observations to Benefit the Environment) は、全世界の幼児・児童・生徒、教師及び科学者が相互に協力しながら、環境に関する意識の啓発、地球に関する科学的理験の増進などにおいて、より高

い水準へ到達するための手助けとなることを目的として環境観測や情報交換を行う、学校を基礎とした国際的な環境教育のプログラムで、NASAが中心となってアメリカに事務局がつくられ、具体的な活動が始まっています。

## 学習のねらい

身近な自然環境に触れ、様々な調査活動を行い、その変化を要因と関係づけながら多角的にとらえることにより、生物と環境のかかわりを総合的に考えることができるよう

にする。また、地域に愛着をもち、そのよさを未来につなげようとする心情や態度を養います。

## 活動を行うにあたって



### P プログラム内容

活動1	校外での発表
活動2	各種イベントへの参加
活動3	グローブ活動
活動4	その他(海田東小学校でのエコ活動)

### 活動時期

- 年間を通じた活動（課外活動等）

### 参加した児童数

- 4~6年生の15人

実  
践  
例



## 活動場所

- 学校近くの三迫川、瀬野川



### ○地域の特徴

本校は、海田町の南にそびえる堂所山から流れる唐谷川が三迫川と合流し、二級河川の瀬野川に注ぐ水域の近くに立地しています。

近代化が進む中、年々個体数が減少している日本の野生種クロメダカや、きれいな水にしか生息しないウズムシ、ホタルなどの貴重な小動物が見られる豊かな自然が残る地域です。

## 児童が展開する活動

本校児童は、保護者等によるおやじの会、地域の瀬野川調査隊、広島環境センター河川部会などの組織から支援を受け、川が大好きな大人たちの環境教育の助力を得て、次の活動を展開しています。

- ① 地域の自然との共生カリキュラムを作る。川の環境調査「水と緑の東小ものがたり」
- ② 学校の授業と完全リンクさせる。—理科・生活科・総合的な学習の時間・道徳・エネルギー環境教育—
- ③ 学年ごとに特色ある活動を行う「生きもの探検隊・緑のカーテン・風力発電・環境サミット」
- ④ ホタルの里復活—卵を育てて放流しよう—

## 活動内容



### 活動1 ~校外での発表~



↑ 校外での発表

- 広島で行った「地球温暖化ストップフェア（2007）」や周辺の小学校で構成する「瀬野川サミット」などで海田東小学校の行う活動を、代表者として発表しました。（H19）
- 「瀬野川サミット」では、中学生や大学生に向け英語で発表しました。（H20）
- 東京・八王子であった「日本グローブ生徒の集い」に参加しました。
- これらの発表に対して、身近な環境から学んだぼくたちの行動力がすばらしいと評価されています。（H20）



### 活動2 ~各種イベントへの参加~



↑ カキの学習会

- 環境の変化と生き物の学習として「カキの学習会」に参加しました。
- 「咲くマッププロジェクト」にも参加し、学校の桜が開花していく様子を、継続的に写真に撮り続けました。
- 「全国川の水質一斉調査」の時には、日曜日に集まり、瀬野川、三迫川の2地点でCODを測りました。



### 活動3 ~グローブ活動~



↑ メールのやりとり

- 毎日同じ位置での定点観測、気温と雲の量と形を毎日アメリカのグローブ本部に送りました。
- この間、500回記念メールも届きました。生き物フレンズの仲間が交代で行いました。



### 活動4 ~その他（海田東小学校でのエコ活動）~



↑ つかまえたアメンボ

#### ● 1, 2年生の取り組み

- ・1, 2年生は生活科で、川の生き物をその手で捕まえ、水の冷たさや流れの速さを感じ、水の深さや川底の様子を実体験しました。
- ・児童からは、アメンボを見て「バイオリンを弾いてるみたいに手を動かすね」といった感性豊かな表現が見られました。



↑ 生き物調べ

#### ● 3年生の取り組み

- ・3年生では、「三迫川の生き物調べ」から川の生きもの図鑑をつくりました。
- ・活動当初は稚拙な表現しかできなかった児童が、視点をもって観察すること、繰り返し観察することによって、生き生きと表現し、意欲ある取り組みの姿に変容しました。



↑ 水質調べ

#### ● 4年生の取り組み

- ・4年生では昨年度と同様に年間を通じて2クラスの児童が川の中流・下流・瀬野川とエリアを分けて観察し、相互に情報交換しながら気温や水温との関係を調べました。
- ・特に、中流域で見つけたゲンジボタルの成虫には興味をもち、生き物フレンズに入会したいという児童も出てきました。
- ・息の長い観察と、天候やその年の気温や水温、水量の変化に、川の生き物の成長がどのようにかかわっているか、などの具体的なことを目の前にしながら調査できました。



#### ● 5年生の取り組み

- ・5年生は、「豊かな体験宿泊活動」事業への取り組みに参加し、昨年度は身近な海田地域の環境と宿泊地である山口県の徳地青少年自然の家周辺との環境の違いに目を向け、理科の学習と関連させて、両地の気温の違いと、生き物の分布について学習しました。(H19)
- ・流れる水のはたらきの学習と関連づけて、福山市の芦田川に行き、川の水の水量と、地形による流れ方の違い、水の量と生きものとの関係、季節による変化と要因について、地域の瀬野川・三迫川と比べてみました。また、芦田川の環境についても学習しました。(H20)
- ・その中で芦田川に多く生えている「葦」の水質浄化作用について知り、興味をもった子どもたちは、芦田川の葦を数本持ち帰り三迫川に植樹しました。(H20)



#### ● 6年生の取り組み

- ・6年生では、「川の生き物マップ」などの地域環境にかかわる学習を行いました。
- ・地域の川の環境と自分たちの暮らしに視点をあて、ライフジャケットを着て、瀬野川を流れて水の力を体感する川流れを行いました。
- ・心を一つに合わせないと進まない「Eボート体験」を行いました。
- ・「Eボート体験」を通じて、チームワーク力や集団活動のルールを守る社会性が育ちました。



## まとめ



### 活動による効果

川の水質を高めるために葦を植えたり、緑のカーテンとして植物を栽培したりしました。川の環境調査活動におむくと、空き缶やペットボトルを拾って帰っていたが、それを見た地域の人が「児童が来るから川掃除をしよう」「草を刈っておくからね」「ゴミを捨てないようにしよう」という運動や意識の変化につながりました。これらは、小さな変化ではあるが、環境回復の取り組みであり、持続させていきたいと願う人々が増えてきたという実感がもてるようになりました。

中流域の唐谷川で見つかったゲンジボタルを捕獲し、平成19年には4,000個の卵を産ませ飼育した。ふ化して育った幼虫は、約1割の400匹でした。



### 関連する単元

- ・1, 2年生－生活「身近な自然観察・季節等の行事」
- ・3年生－理科「身近な自然の観察」
- ・4年生－理科「季節と生物」
- ・5年生－理科「動物の誕生」
- ・6年生－理科「生物と環境」
- ・1～6年生－道徳「主として自然や崇高なものとのかわりに関すること」
- ・共通－総合的な学習の時間
- ・特別活動－学校行事「遠足・集団宿泊的行事」

# 七歩川再生プロジェクト ～きれいな川を取り戻そう～

川を浄化し、  
“遊べる川に変身！”  
を夢見る子どもたち

## 活動概要

下郡小学校では過去に、七歩川再生プロジェクトとして、小学校の近くを流れる七歩川で、美化活動や水質浄化活動などを行っていました。

3年目の活動となる平成18年度は、水生生物調査や川の汚れ調査などにおいて、「七歩川を調査したい」「自分たちが遊べる川にしたい」という思いが、強く見られる活動となりました。

学校名	大分県大分市立下郡小学校
活動場所	七歩川(学校の目の前を流れる川、徒歩で移動)、教室、公民館
対象学年	4年生
科目	総合的な学習の時間の活動として実施
所要時間	年間を通じた活動(全30時間)



## 学習のねらい

本学習は、下郡小学校の4年生が過去に取り組んだ「七歩川プロジェクト」の3年目の活動として、総合的な学習の時間に実施したものです。

①「七歩川（再生）プロジェクト～（遊べる）きれいな川を取り戻そう～」をタイトルに掲げ、七歩川の清掃美化活動、水質調査、水生生物調査、浄化方法調べを通して、

## 活動を行うにあたって

### P プログラム内容

活動1 1学期	①七歩川再生プロジェクト引き継ぎ式 ②上流～下流の見学会
活動2 2学期	①七歩川の見学会 ②ほかの川(神原川)の見学 ③水をきれいにするための活動 (ゴミ調査、川の汚れ調査、生き物調査、 水の浄化方法調査、意識改革の啓発活動) ④中間発表会 ⑤廃油を利用したせっけんづくり

ふるさとの川をきれいにしたい、遊びたいという思いを強める。

②七歩川の調査活動でわかったことを学習発表会や看板作り、ビラ配布などを通して地域に発信し、地域住民に川をきれいにしたいという思いをもたせ、住民運動につなげていくきっかけづくりをする。

活動3 3学期	①地域の人々への発表会 ②明治大分水路の見学
------------	---------------------------

### 活動時期

・年間を通じた活動

### 参加した児童数

・4年生 124名

## 実践例



## 活動場所

- 七歩川（学校の目の前を流れる川），教室，公民館



## 使用した道具

- 水質調査の道具（簡易水質測定キット，バケツ）
- 生物調査の道具（タモ網，バケツ）



## スタッフの手配

大分土木部事務所，自治委員，七歩川をきれいにする会，明治大分水路の管理組合など，多くの人々に協力いただきました。



## 現地下見

活動場所の下見を行い，大分土木事務所のご尽力で，道路から川に下りやすいように階段を設置してくれました。また，学習しやすいように草刈りをしてくれました。

## 活動内容



### 活動1 ~1学期の活動~



↑ 七歩川の様子



↑ 七歩川マップ



### 活動2 ~2学期の活動~

#### ① 七歩川再生プロジェクト引き継ぎ式

- 活動のはじめに，子どもたちに七歩川を意識させるため，「七歩川プロジェクト引き継ぎ式」を行いました。
- 引き継ぎ式では，昨年度七歩川での活動をした5年生に説明をしてもらったり，引き継ぎのあいさつをかわしたりして，七歩川プロジェクトに取り組むきっかけにしました。

#### ② 上流～下流の見学会

- 5月に全員で，七歩川を下流から上流まで歩いて見学しました。
- 七歩川を見ることで，児童からは「汚いな」「くさいな」「ゴミが多いな」「水が濁っているよ」といった感想が聞かれました。
- 見学後，上流部にある整備された空間で，自由に遊びました。
- この経験を活かして，子どもたちに「七歩川マップ」を描かせました。多くのゴミや汚水のある現実を描く子どもがいる一方，七歩川の理想とする姿を描く子どもも多く見られました。

#### ① 七歩川の見学会

- 1学期の復習という意味も含め，「七歩川は本当に汚れているのか」と投げかけました。1回の見学だけでは七歩川の課題を見つけることが難しいと気づき，2回目の見学会を行うことにしました。
- 2回目の見学会では「油がたくさん浮いている」「においが気になる」といった意見や，「生き物が意外といた」「汚れていないように見えるところもある」といった意見があがりました。



↑ 神原川の見学風景



↑ 七歩川に浮かぶゴミ——自転車などの粗大ゴミ



↑ 水質調査の様子



↑ 生物調査の様子



↑ EM菌実験の様子

## ② ほかの川(神原川)の見学

- 10月に、名水が流れていることで知られる神原川に見学に出かけました。神原川は、天然の部分と、河川公園として利用できるように整備された部分の両面をもつ川であり、子どもたちは、生き物を探したり、水につかったりしていました。
- 神原川を見ることで、子どもたちは「七歩川も神原川のような川にしたい」という具体的な目標をもつようになりました。

## ③ 水をきれいにするための活動

- 「七歩川を神原川のようにしたい」という願いから、子どもたちは五つの課題を考え、解決するための調査や活動を行うことにしました。
- 課題は「ゴミ調査」「川の汚れ調査」「生き物調査」「水の浄化方法調査」「意識改革の啓発活動」です。それぞれの活動は次のとおりです。

### ○「ゴミ調査」グループ

- 七歩川に浮かぶゴミを調べたり、拾ったゴミを分別したりして、ゴミの内訳を調べました。橋の付近にゴミが多いことや、ビニール袋が一番多いことがわかりました。粗大ゴミもありました。
- ゴミ調査の結果を表やグラフに表し、ゴミの多さや種類が七歩川の汚染につながるので、ゴミを捨てないで欲しいと訴えました。

### ○「川の汚れ調査」グループ

- 七歩川にある八つの橋で水質調査を行いました。
- 水は橋の上からバケツでくみ揚げ、簡易水質測定キットを使って水質を測定した結果、水は非常に汚いということが分かりました。
- また、七歩川の水と、水のきれいな神原川の水質を比べ、七歩川の水質が汚いことを訴えました。

### ○「生き物調査」グループ

- 七歩川で生き物調査を行いました。
- 生き物がどのような場所にすむのか調べたり、神原川にすむ生き物を調べたりして、七歩川の汚れがひどいことを訴えました。

### ○「水の浄化方法調査」グループ

- 水をきれいにする方法を調べ、ろ過装置をつくりました。実際に調べましたが、水質はありませんでした。
- また、川の水の汚れた成分を食べて分解する力を持つEM菌を使い、EM菌発酵液をつくりました。EM菌と米のとぎ汁を混ぜてつくったこの液を、何軒かの家庭に配りました。

### ○「意識改革の啓発活動」グループ

- 「地域に住む人々に七歩川をきれいにする呼びかけをしたい」という願いから、七歩川について住民にアンケート調査を実施したり、チラシや看板づくりをしたりしました。

## ④ 中間発表会

- 11月に行われたファミリーPTAで、全校の児童と保護者や地域の方に、各グループの調査活動を発表しました。

## ⑤ 廃油を利用したせっけんづくり

汚染の要因である食用油を適正に処理する方法として、大分県消費生活センターの方を講師として招き、廃油（使用済み食用油）を利用したせっけんづくりを行いました。



## 活動3 ~3学期の活動~



① 活動発表会

### ① 地域の人々への発表会

公民館で開催されたNANBUせせらぎスクールで、保護者、地域の方々、3年生の児童にポスターセッション方式で活動結果を発表しました。

### ② 明治大分水路の見学

●七歩川に流れ込む明治大分水路の見学に行き、水路がどのようにしてできたのかを、管理者の方から聞きました。子どもたちは、七歩川が昔から地域の人々の生活に根ざしていたことを学びました。

## まとめ



### 活動による効果

- ①国語科における発表を中心とした「話す・聞く」領域や発表原稿の作成をした「書く」領域に関する活動、社会科におけるゴミ問題・上下水道の学習、理科における水生生物の学習、図工科におけるマップ作りと、各教科学習で学び身につけたことが、総合的に生かされた取り組みができました。
- ②水質浄化に向けて、自分たちにできることや地域の方々に呼びかけていくことを考え、多くの情報を地域に発信できた。浄化の一翼を担えるという自信と、七歩川を大切にし自慢となる川にしたいという気持ちをもつことができました。



### 関連する単元

- ・3年生－理科「身近な自然の観察」
- ・4年生－社会「身近な地域や市（区・町・村）の特色ある地形」
- ・共通－総合的な学習の時間



### 子どもたちの広場

七歩川には、油がたくさん浮いています。だから透明度も低くて、流れがほとんどありません。それで汚くなっています。私たちは、10月12日に神原川に行ってきました。そこは流れがあつて透明度も高くて遊べるところです。七歩川もそういうふうにきれいにしたいです。



### 先生の声

平成18年度は、七歩川プロジェクトを始めて3年目ということで、児童の「七歩川を調査したい」「自分たちが遊べる川にしたい」という思いが強く、意欲的に活動を行っていた。休日に自主的に調査に行く子どもや、生き物調べをする子どもも出てきた。また、活動を通して川の汚れをより身近に感じられたことで、地域の人々に伝えたいという思いもより強まってきた。

生き物調べのグループは、今年度川に設置された階段を使って七歩川に下り、川の土を掘ったり水に網を入れて生き物を探したりするなど意欲的に活動することができた。昨年度は見つからなかった生物を見つけ、川の水にはきれいな場所ときたない場所が混在していることがわかり、学習の深まりが見られた。

# 渡良瀬川を中心とした 自然体験活動を通して

群馬県邑楽町立高島小学校長 和田 幸子

屈託のない笑い声、滑らないように一足一足確かめながら足を進めている真剣な目、自然の中で活動する子どもたちは笑顔に溢れ、目がきらきら輝いています。教室の中では見ることのできない豊かな生き生きとした表情です。子どもたちには五感を駆使した、こうした活動が必要だと実感しました。

川の中を歩く、川を渡る、川で泳ぐ、川で魚を捕るなどの川での活動は、子どもが夢中になって活動できる反面、危険が伴います。それだけに川での学習内容を吟味し、子どもの安全を十分確保する必要があります。

高島小学校では、学習指導要領に「総合的な学習の時間」が創設されたことを受け、平成12年度より、4年生以上の「総合的な学習の時間」に川での自然体験学習を年間指導計画に位置づけました。豊かな自然体験や本物の体験からしか得られない大きな喜びや感動を通して、子どもたちに「生きる力」や「豊かな人間性」を育むことにしました。こうして、身近な自然や渡良瀬川を学習の場とした自然体験学習の試行が始まりました。自然体験学習が単なる体験で終わらないように、それぞれの学年のテーマを明確にし、子どもたちに課題をもたせることにしました。

4年生はテーマを「渡良瀬川の四季」とし、中流域を中心に活動を展開しています。5年生のテーマは「わくわく発見！渡良瀬川と地域の川」とし、活動の場を上流・中流・下流域に広げました。6年生はテーマを「ありがとう渡良瀬川」としました。足尾銅山や雲竜寺など渡良瀬川の歴史をたどり、自然体験学習の集大成に取り組んでいます。また、昨年度より6年生は足尾の山に「緑をもどそう」の運動に参加し、植林を通して環境への意識を新たにしました。

各学年の体験学習が体系づけられ、発展していくように、活動の場や時期、内容の創意工夫を重ねてきました。そして、自然体験学習で学んだことを子どもの言葉で表現できるように、発表会を毎年行ってきました。

実施にあたっては、事前に国土交通省の河川事務所の方々と連携し、全教職員で子どもの活動の場となる川や林の調査をし、安全確保に努めてきました。本校の川での自然体験学習も開始から早、今年で10年が経過しました。このように長く継続できたのは、多くの方々の支えがあったからです。交通手段や児童の安全確保、ライフジャケットなどの準備を支援してくださる国土交通省渡良瀬川河

川事務所の方々や地域のボランティアの方々、河原で温かいものを食べさせようと労を惜しまず、子どもたちに味噌汁やカレーを作ってくださる保護者の方々、河原に生えている野草をその場でてんぷらにしてくださった野草の会の皆様、田中正造や雲竜寺のかかわりを説明してくださった先生、河原で生息する観察会でご指導してくださった野鳥の会の皆様等々、いろいろな方々のご尽力によるものと感謝の気持ちでいっぱいです。

川の学習では教員や保護者、国土交通省、地域の方々が川渡りの網を持ってくれるなど、子どもたちの安全を支えています。危険な活動もその人たちのお陰で、安全に楽しくできるなど、身をもって体験するため、感謝の念が培われ、素直な気持ちで自然な形で「ありがとうございます」と言えるようになっています。親近感が増し、仲良く協力できる子が増えました。また、あいさつもよくできるようになりました。感謝の心や優しさが育っています。子どもたちは、川が好きになったと同時に川の危険も身をもって理解するようになってきました。川に対する知識も増え、環境に対する意識の向上に繋がっています。

ペットボトルのキャップを集め、世界の子どもにワクチンを贈ろうと昨年から児童会を中心に保護者や地域を巻き込んだ「エコキャップ運動」の展開が始まりました。

このように、子どもが学習に意欲的に取り組むなど、自分の活動を再認識したり課題を発展させたりできるようになりました。

教師にとっては、子ども一人一人にきめ細

かく目を配れるようになりました。ボランティアの方々が子どもの安全を見守ってくださるので、子どもの活動状況に応じた声かけや支援がタイミングよくできるようになりました。その結果、子どもとの触れ合いの機会が増し、信頼関係がより強くなりました。

また、野鳥の会の皆様や田中正造記念館や矢場川を守る会の方々、国土交通省等の専門的な方々と連携しながら活動を展開できるため、教師にとっても多様な見方や考え方方が広がるなど、学習内容が深まり、活動の充実を図ることができました。

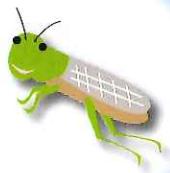
保護者や地域にとっては、学校と家庭、地域との連携が一層推進しました。地域の子どもは地域で育てる土壤が根づいてきました。保護者や地域の方々が川学習に参加し、子どもの活動の様子を見学し、かかわることにより、活動への关心や学校への理解が深まり、積極的に協力しようとする人が増えてきました。さらに、家庭や地域との連携がより緊密になり、保護者及びボランティア相互の親睦や交流が深まってきました。

平成20年度は群馬県より自然体験学習の実践が“特色ある教育活動”として表彰され、子どもたちはより自分の学校に誇りと自信をもつことができました。

学校生活でも、自ら進んで、物事に取り組むようになり、友達と協力して困難なことでもやり遂げようとする気持ちが育ってきました。学校生活に良い影響をもたらしています。

今後も自然体験学習を継続し、学習内容を精選し、活動の充実を図りながら、子どもの豊かな心や生きる力を育みたいと思います。

# 川を活かした 体験型学習 プログラム



# 1. 川や水を感じる

川にはたくさんの危険が潜んでいます。川を「より楽しく、より安全に楽しむ」ために、川の危険をよく知ることが大切です。

1-1	川や水辺の安全講座（室内講習編）	ページ 69
1-2	川や水辺の安全講座（実技編）	73
1-3	川を流れよう	77
1-4	Eボートに乗ろう	81
1-5	カヌーに乗ろう	85
1-6	Dボートをつくって乗ろう	89
1-7	遊びを探そう	93



# 体験型学習プロ

## 2. 川や水辺の環境を調べる

川や水辺には豊かな自然環境が見られます。自然環境を知ることで、自然の仕組みや法則を理解することができます。

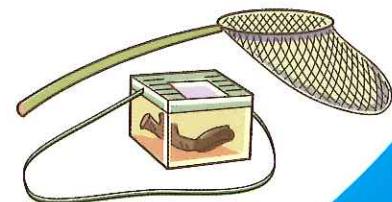
2-1	諸感覚をつかい水質を調べよう	ページ 97
2-2	川の生物から水質を調べよう	101
2-3	科学的に水質を調べよう	105
2-4	川の流れの速さを調べよう	109
2-5	石や砂を調べよう	113
2-6	模型から水の流れを学ぼう	117
2-7	ゴミの分布を調べよう	121



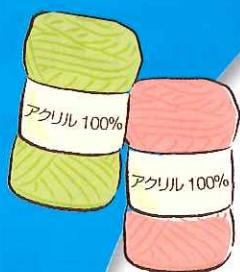
# 3. 川や水辺の生き物を調べる

川や水辺は自然の宝庫です。生き物の生息は地域によって異なり、また、川の上流、中流、下流でも多様で独特的な生態系が見られます。

- |     |             |     |     |
|-----|-------------|-----|-----|
| 3-1 | 底生生物を捕まえよう  | ページ | 125 |
| 3-2 | 魚を捕まえよう     | 129 |     |
| 3-3 | 陸上昆虫を捕まえよう  | 133 |     |
| 3-4 | 鳥を観察しよう     | 137 |     |
| 3-5 | 植物を観察しよう    | 141 |     |
| 3-6 | 生き物の分布を考えよう | 145 |     |
| 3-7 | ホタルを飼育してみよう | 149 |     |



# グラムの紹介



# 4. 環境保全・改善について

かんがい  
川は都市用水や灌漑用水の供給源で、水は人の暮らしに欠かすことができません。また、川は、そこに息づく生き物たちにとっても、貴重な恵みの場なのです。

- |     |             |     |     |
|-----|-------------|-----|-----|
| 4-1 | ビオトープを活用しよう | ページ | 153 |
| 4-2 | 川にやさしいリサイクル | 157 |     |
| 4-3 | 水をきれいにしよう   | 161 |     |
| 4-4 | 下水処理場を見学しよう | 165 |     |

1  
プログラム

2  
プログラム

3  
プログラム

4  
プログラム

5  
プログラム

6  
プログラム

# 5. 洪水の怖さや防災について

地球的規模の気候変動に伴い、大雨の頻度が増加したり、風水害が頻発したりしています。風水害の原因や防災についての理解が大切になっています。

5-1	洪水の怖さを学ぼう	ページ 169
5-2	地域の川の洪水の歴史を学ぼう	173
5-3	治水施設について学ぼう	177
5-4	水防について学ぼう	181
5-5	ハザードマップをつくろう	185



# 6. 川と地域の歴史や文化について



川は、人々との様々な自然体験、交流の場であり、長い歴史の中から地域特有の文化が生まれてきました。

6-1	川でのイベントに参加しよう	ページ 189
6-2	生活と川との結びつきを調べよう	193
コラム1	「子どもの水辺」へ行こう	197
コラム2	地域の人々に川の話を聞こう	199
コラム3	ゲストティーチャーを呼ぼう	203



ライフジャケットマーク

※ライフジャケット（救命胴衣）の着用は、万一の水中転落に備えて重要です。ここでは、ライフジャケットの着用を必要とするプログラムや活動に、「ライフジャケットマーク」をつけています。危険が少ないと感じても、ライフジャケットは必ず着用して活動するよう指導してください。